

立神峡里地公園だより

活動報告

冬の里山学校 ～目指せ冬のカキ大将！～

12月26日から28日までの2泊3日、『冬の里山学校 目指せ冬のカキ大将！』を開催いたしました。

参加者は、町内外の小学生16人、八代農業高校 泉分校の高校生リーダー4人、立神峡スタッフ3人を合わせた23人で過ごしました。開校中は自分たちで食事を作り、風呂を沸かし、時間が空いた時は寒空の下で、元気いっぱい里山の中を走り回りました。

自分たちで作る機会が少なくなった餅つきでは、参加者一人ひとりの体力が尽きるまで必死に、「ヨイショ！ヨイショ！」という掛け声とともに杵を振りおろし、つきたてホカホカの餅を餅とり粉で全身真っ白になりながら丸めていました。お昼ごはんは、出来あがった餅をきな粉や砂糖醤油、海苔を巻いたりして、さながら餅パーティーの様でした。

今回の目玉でもあった繭玉電灯作りでは、みんな同じ材料を使ったにもかかわらず、非常に個性の出た作品が出来あがりました。午前中の餅つきとは打って変わり、みんな黙々と一芸術家として作品に没頭し、世界に一つだけしかない電灯を作っていました。就寝の挨拶の前に一か所に集めた電灯をライトアップしたところ、その幻想的で揺らめく電灯に感動し、声を出すのも忘れるくらいでした。

最終日には、活動のまとめと感想をお迎えに来られた保護者の方々の前で班ごとに発表し、スライドショーで子どもたちの活動や楽しんでいる表情を見ながら、保護者の方にもこやかに「うん、うん」とうなずかれました。

開校初日は、保護者の方に荷物を持ってもらって参加していた子どもたちも、帰る時は自分の体と同じくらいのバックを自分で背負い、たくましく帰る姿が印象的でした。

森のようちえん”りとり” だより

12月、森のようちえんでは、クリスマスにちなんだ「松ぼっくりツリー」作りを里地屋敷にて行いました。松ぼっくりに、様々な色・形のビーズをデコレーションし、イルミネーションにも負けない宝石箱のような、素敵で小さなツリーを親子一緒に作りました。



▲土曜コースみんなで記念撮影



▲お母さんと一緒に頑張りました

詳しいお問い合わせ・お申し込み先 立神峡公園管理棟 ☎62-1543



▲初チャレンジ！繭玉電灯



▲みんなで餅をべったんべったん



▲友達や思い出がいっぱい

思いやりの『心』を大切に

12月9日、竜北西部小学校において、人権の花運動終了イベントが行われました。

これは、平成23年度人権の花運動実施校として同校がくまもと県南人権啓発活動地域ネットワーク協議会から選定され、実施したものです。

この運動は、主に小学生を対象とした啓発運動で、配布された花の種子、球根などを児童が協力しながら育成することを通して、協力・感謝することの大切さを学ぶとともに、情操を豊かにし、やさしい思いやりの心を体得させ人権思想をへぐむことを目的としたものです。

終了イベントでは、校長先生、氷川町教育長、八代人権擁護委員協議会長からの挨拶の後、児童代表より「人権の花の取り組みをして」の発表が行われ、町から感謝状の贈呈の後、児童たちは風船にメッセージと花の種をつけて一斉に飛ばしました。最後に児童代表から関係者へのお礼の言葉があり、KENまもる君と人KENあゆみちゃんとの記念撮影を行い閉会しました。



▲取り組み発表をする宇田雄成くん(3年)



▲感謝状を受ける吉見沙矢可さん(6年)



▲取り組み発表をする作原華音さん(4年)



▲お礼の言葉を述べる作原響太くん(6年)



▲どこまで飛んでいくな！



▲まもる君、あゆみちゃんと記念撮影(1年生)